

## リスクリングワークショップ ～自社の成長事業を担う人材育成～



茨城県では、県内産業の生産性の向上を目指し、企業人のリスクリングの推進に取り組んでおります。

変化の激しいこの時代に、人手不足の解消や生産性向上へとつなげるため、具体例にどのようにリスクリングに取り組めばよいのか、日本におけるリスクリング推進の第一人者である後藤宗明氏を講師にお招きし、講義だけでなくグループワークも交えてリスクリングの理解を深めました。

日時 令和6年7月17日(水) 13:00～16:00  
場所 水戸市民会館大会議室  
参加者 県内企業、事業所の経営者及び役員など 40名  
講師 後藤 宗明 氏  
(一般社団法人ジャパン・リスクリング・イニシアチブ代表理事)



## 内容

第1部	なぜ今リスキリングが重要なのか～技術的失業の議論の再燃～
第2部	リスキリングとは？
ワークショップ①	「Chat GPTが与える影響」のSWOT分析
第3部	日本におけるリスキリングの課題
第4部	リスキリングの先進事例
第5部	リスキリングにおける経営、人事の役割
第6部	リスキリング【実践編】
第7部	グローバル&デジタル分野のリスキリング
ワークショップ②	「自社人材」のSWOT分析と取り組むべきリスキリング施策 「自社の強み」×「デジタル」

## 講義要旨

- リスキリングは企業が主体となり、経営戦略と一体的に「業務」として取り組むべきもの。単に学ぶことではなく、新しいスキルを身につけ、実践し、新しい業務や職業に就くことを指す。
- 個人の視点では、「働くこと」の見返りに得られるものは、「賃金」とその経験を通じた「スキル」
- テクノロジーの進化により、あらゆる仕事が自動化されていき、人間とAI、ロボットと一緒に働く時代が到来している。リスキリングは、これから新しく生まれる仕事に就くための準備プロセスである。
- 就業時間内に学習に取り組み、そして学んだスキルを実践できる環境が必要。
- 経営者自らリスキリングに取り組み、最新のデジタルテクノロジーを学ぶべき。自ら学ぶことで、誰に任せるか適性を理解し、抜擢することができる。
- 職場にリスキリングの機会があれば、従業員の会社に対するエンゲージメントは向上し、むしろ会社に留まる傾向にある。



## グループワーク

グループワークでは、ChatGPTが与える自社への影響や現在の自社人材についてSWOT分析（弱み・強み・機会・脅威）を行い、また、「自社の強み」と「デジタル」を掛け合わせてどのようなリスキリング施策が考えられるか、意見交換と発表を行いました。

現状把握により、リスキリングの必要性や推進のための課題、今後注力すべき取組みについて、さまざまな意見が交わされました。





## 参加した皆さんの感想・今後取り組んでいく施策や目標

### (感想)

- リスキングの必要性や企業のトップが自ら働きかけていく重要性をしっかりと認識できた。
- 他業種の現状や将来の方向性が見える機会となった。
- 当社ではリスキングが動きだしたばかり。グループワークで様々な職種の方と意見交換でき、非常に有意義な時間になった。
- リスキングの考え方について改めて整理ができた。また具体的な取組みについても考える機会になった。
- 新しい時代の動きを具体的に理解できた。なぜリスキングが必要なのか、その定義を聞けて良かった。

### (目標など)

- 生成AIの影響で業務が自動化されていくため、余剰になると考えられる人材を、リスキングにより今後必須となるデジタル分野へシフトしていく。
- 新規事業立ち上げに当り、経営層とともに一から事業の仕組み等を構築できる人材を育成する。
- リスキングを推進する体制を整備し、研修等の受講機会を広く提供する。